

ミュニシパリズム・再公営化の動きから、「大阪都構想」とその後を切る！

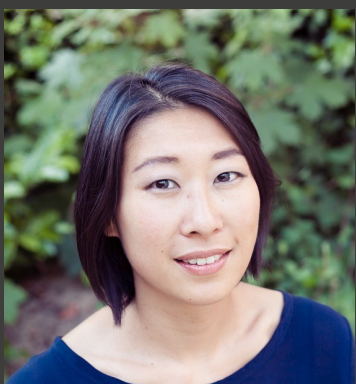
日時：2021年3月6日（土）16:00-17:30

*17:45-18:45 AMネット会員総会（オブザーバー参加可能です）

参加費：1,000円（AMネット会員は無料*）

定員：100名（要事前申込、開始1時間前に締め切ります）

申込：<https://amnetosaka210306.peatix.com/>



岸本聡子 ▼オランダ・アムステルダムを本拠地とする政策シンクタンクNGO「トランスナショナル研究所」に2003年より所属。新自由主義や市場原理主義に対抗する公共政策、水道政策のリーサーチおよび世界中の市民運動と自治体をつなぐコーディネイトを行う。著書に『水道、再び公営化！欧州・水の闘いから日本が学ぶこと』（集英社新書、2020）。



武田かおり ▼2001年、持続可能な経済と社会のしくみを目指し、AMネットで活動を始める。世界中の「水道民営化」の失敗を知る団体として、大阪市の水道民営化プランに対する懸念を市議会に届けるなど、問題提起を行う。水道民営化問題をきっかけに「大阪都構想」「IRカジノ」など、地元大阪市のテーマについても、他団体と協働し活動している。



平賀緑 ▼立命館大学専門研究員、京都橘大学非常勤講師。香港と日本において新聞社、金融機関、有機農業関連企業に勤める。ロンドン市立大学修士（食料栄養政策）、京都大学博士（経済学）を取得。食料・農業の国際政治経済学および食料政策を専攻。著書に「植物油の政治経済学—大豆と油から考える資本主義的食料システム」（昭和堂、2019）。AMネット理事。

■昨年、「大阪都構想」に多くの市民が反対の声を上げました。しかし、住民投票否決後も「府市一体化・広域行政一元化条例」が、この4月にも施行されようとしています。これに対し、市民が再び街頭に立つ活動が始まっています。

■世界でも市民が声を挙げ、政治を変えています。「社会運動が圧力を作り、地方政治が国政を変える」「コモンを取り戻す」、いわゆる「ミュニシパリズム」の実践が広がっています。スペイン・バルセロナ市で始まった「地域のことは地域が決める」住民自治のあり方は、各地で話題を呼び、国を越え、自治体同士の連携を生んでいます。

■「大阪都構想」に対する住民運動とは一体何だったのか、市民活動から始まった「ミュニシパリズム」の事例、EUを中心に広がる動きなど、欧州など世界の最先端の情報を発信し続けている岸本聡子さんと、AMネットの地元大阪で活動する武田かおり事務局長に、平賀緑（経済・食料研究者）がお話を伺います。

■こんな方におすすめです！

- ミュニシパリズムに興味がある方
- 地方自治の可能性・先進事例を知りたい方
- 「大阪都構想」での市民の動きを知りたい方

■参考文献

- 岸本聡子『水道、再び公営化！
欧州・水の闘いから日本が学ぶこと』
（集英社新書、2020）
- 斎藤幸平『人新世の「資本論」』
（集英社新書、2020）

* AMネット会員募集中 *

この機会にご入会いただければ、参加費は無料になります（年会費3,000円）。

①お名前②会報発送先住所を、「入会&3/6参加」の件名でお知らせください。

* お問い合わせ *

amnetosaka@yahoo.co.jp
070-4412-7006